茨木のり子の詩と思索を巡る旅

春の集い

2020年3月29日(日)14時～16時30分
西東京市 柳沢公民館 視聴覚室

「茨木のり子の家」より

西東京市東伏見の地で、創作活動を続けられた茨木のり子さんの詩やエッセイなど、彼女の思索に触れ、語り合う集いです。

今回は、絵本『貝の子プチキュー』読み聞かせ、CD『わたしが一番きれいだったとき』鑑賞、詩の朗読・群読等を企画。お誘い合わせてご参加下さい！

◆絵本「貝の子プチキュー」　作 茨木のり子 ・ 絵 山内ふじ江 (2006年 福音館書店)

「貝の子プチキュー」は、茨木のり子さん1948年作の童話で、同年7月30日に、NHKラジオ第一放送、夏のラオ学校(低学年の時間)で、山本安英さんの朗読により発表されました。茨木さん没後の2006年6月、山内ふじ江さんの絵で絵本として出版されました。紙芝居のボランティアをされている**穂坂晴子さん**に、大人向け読み聞かせをしていただきます。

◆CDで音楽詩を聴く

吉岡しげ美「わたしが一番きれいだったとき」
「じぶんの感受性くらい」「倚りかからず」等

吉岡しげ美さん(城西国際大学客員教授)は、詩や短歌に曲をつけ、ピアノ弾き語りなどによる音楽詩コンサートを開いています。今回は、茨木のり子さんの詩3曲をCDで鑑賞します。

◆朗読・群読

「六月」「最上川」「汲む」「さくら」「落ちこぼれ」「鶴」等

会員および「保谷朗読ボランティアの会」有志が茨木さんの詩を朗読します。
最後に、参加者全員で「倚りかからず」を群読。
新発見があるかもしれません！

主催　茨木のり子の家を残したい会　代表　小田桐孝子　連絡先　柳田由紀子　Tel 042-461-3246

「茨木のり子の家」を
地域の文化財として残そう！賛同のお願い

茨木のり子の家
(西東京市東伏見)

皆様

茨木のり子の詩に触れ、共感・共鳴し、励まされたり、新しい世界が開けたり、
彼女の詩から様々な贈り物をもらっている私たちです。

彼女は、1958 年に東伏見の地に夫君三浦安信氏と新居を構え、1975 年に安信氏が肝臓がんで亡くなった後も独り住み続け、2006 年にこの終の棲家で孤独死されました。
坂の中腹にあるその家は、自然とマッチしたロッジ風の素敵な佇まいです。
主なき家は甥御さんが相続され、当時のままで残されています。

甥御さんがまとめられた「茨木のり子の家」（平凡社・初版 2010 年）によると、32 歳の時に建てたこの家は彼女と建築家の従姉妹さんが設計したもので、写真で見る内部は、暮らしを大切にされたことが伝わってくる造りです。甥御さんはあとがきで、「どの程度まで本人が設計に関わったのか定かではないが、エントランスから臨む山小屋風のデザインは今見ても斬新だし、内装には独特の落ち着きがある。武蔵野の雑木林に佇むこの住居も茨木のり子の作品の一つと言えなくもない」と評価されています（だから出版までされたのでしょう）。

第 2 詩集以降 79 歳で亡くなるまでここで詩作を続けられたことは、この地・この家が住み心地よいところだったからでしょう。

詩は、時空を超えて、人の心に届くものですから、詩の価値は人それぞれに違い、詩と詩人が暮らした場所とは無関係、切り離すべきという考えもあるでしょう。
しかし、詩作の場を知ることで、その暮らし方にも関心が広がり、思想、全人格への理解が一層深まるということもあるでしょう。
「茨木のり子の家」は、まさに、その対象となり得る価値ある建物だと思います。

没後 10 年の 2016 年に、彼女の家を文学館などの形で残したいという思いを共にする者たちが会をつくりました。家を相続された甥御さん（三鷹市在住）に考えをお伝えしたところ、空き家に見えるかもしれないが伯母に関するあらゆる資料を保管し、出版や展覧会企画等の打合せ、写真撮影等伯母から引き継いだ仕事を継続して行っている重要な機能を果たしている現役の仕事場であるとして、記念館等の構想には否定的な考えをお示しになりました。

私たちとしては、だからと言って、彼女の家を残したいという気持が消えることはありません。地域の文化財として、多くの人がその価値を共有できる場となることを願っています。甥御さんは、将来状況が変わった時は選択肢の一つに入るかもしれないとも仰っていますので、私たちは、どのようにしたら実現できるか、どのような形にしたらよいのか、考えていきたいと思います。
茨木のり子は、旧保谷市の「憲法擁護・非核都市の宣言」制定にも関わりがあり、地域に根ざした詩人でもありました。彼女の詩や思想を学びながら進めていきたいと思います。

私たちの考えに、賛同してくださる仲間を求めています！
ぜひ、賛同人になってください。
そして、さらに、呼びかけ人になって、賛同する仲間を増やしてください！

「茨木のり子の家を残したい会」呼びかけ人
入沢愛子（泉町）、小熊ひと美（南町）、小田桐孝子（下保谷）、唐澤秀子（北町）、
柳田由紀子（柳沢）

2019 年 1 月